

2025年(令和7年)

第92号

(12月4日)

平安だより

HEIAN letter

発行所:立正佼成会 京都教会

発行責任者:渉外部長 澤村悦玄

編集委員長:渉外広報 植田恭司

〒605-0041 京都市東山区三条東町230

TEL(075)762-2211 FAX(075)762-2266

新宗連 京都府協議会 戦争慰靈・教団訪問 ~平和資料館を訪れる~

新日本宗教団体連合会(新宗連)京都府協議会は11月30日、滋賀県協議会と合同で太平洋戦争の慰靈と教団訪問を行ない、京都教会から東教会長と渉外部副部長が参加しました。



戦後80年となる今年、戦争で被災し死没された方を祀る「太平洋戦全国戦災都市空爆死没者慰靈塔」で教団ごとの祈りを捧げ、その後、「姫路市平和資料館」を訪れました。資料館には明治維新から近代都市へ歩む姫路市の様子がパネルで展示されており、また昭和初期の生活がジオラマで再現されていました。中でも昭和20年の2度の空襲の様子を疑似体験装置でその恐ろしさを知ることが出来ました。当時の数々の展示

品もあり、参加者の一人は「初めて“千人針”を拝見しました。夫や我が子の無事を祈る母の祈りを感じました」と感想を述べていました。

昼食後は大慧會教団姫路法明館を訪れ、教団の歴史・教え・取り組み事業・慰靈祭の様子などを知ることが出来ました。取り組み事業の中には社会との調和(社会貢献活動)として、こども食堂を展開。地域のお困りごとに手を差し伸べ、その開催数の多さに参加者も学ぶところが多くありました。最後に当協議会議長の東教会長から謝辞が述べられました。

その後、一行は世界遺産の姫路城を訪れ、その美しさ・雄大さに感激していました。



聖壇作法確認会 ~導師・鐘・木鉦・太鼓に分かれて自己向上を図る~

今年2回目の聖壇作法確認会が11月23日に行なわれ、日頃、聖壇上でお役を務める会員が参集し、本部聖壇役員が所作の確認を行ないました。

開催にあたり東教会長は、本日23日が新嘗祭(にいなめさい)であることにふれ、「日本は儀式を重んじてきた国である」とし、儀式儀礼で一番大事なことは「感謝を表すこと」としました。「会長先生から、聖壇の式衆は“陰役”とご指導頂いています」と述べ、「主役は法座席の会員さんであり、いろんな願い・思いでご供養をされている」としました。「実際に聖壇に上がれば、形を気にしてしまいますが、聖壇での所作が整うことは心が整い、心が整うと生活も整います」

と今回の確認会が生活に即していると意義をかみしめました。また、佼成会ではお数珠の玉について、2つが左手、3つが右手としているが、日蓮宗のお坊さんは2つが右手、3つが左手であるとし、これは庭野開祖が“私たちは在家だから”という理由で逆にされたことを披露。生活の中で信仰を活かしていくことの大切さを述べました。

その後、導師・鐘・木鉦・太鼓に分かれてパート別練習を行ない、成果発表として3組が登壇。お互い、評価点・改善点などを出し合いながら、自己向上を図りました。

京都教会ビデオレター12月号 配信中 ~東教会長発~

ビデオレター12月号が京都教会のホームページで公開されています。パスワードは各支部長にご確認下さい。<https://rkk-kyoto.jp/archive1/20251201>



左記のQRコードをスマートフォンで読んで、ご覧頂くことも出来ます。地区単位、各家庭においても視聴し、1ヶ月の修行目標とさせて頂きましょう。

令和7年、私たちは「仏さまと出会い サンガと語り合って 心田を耕そう」を実践して参ります。

京都教会のホームページもご覧下さい。<https://rkk-kyoto.jp/> (右のQRコードからご覧頂けます)



第76回かめおかこころ塾～「天台声明」について語る～

かめおか宗教懇話会（会長：岩田昌憲 丹波国一之宮出雲大神宮宮司）は11月8日、大本本部みろく会館3階ホールにおいて第76回かめおかこころ塾を開催し、亀岡市民をはじめ加盟団体の会員が参加しました。京都教会からも亀岡支部の会員数名が拝聴しました。今回は天台宗大原 魚山實光院住職の天納玄雄（あまのげんゆう）師が講師を務め、「天台声明（てんだいしょみょう）」への誘い（いざない）と題し、約90分間の講演を行いました。



天納師は『“声明”とは経典などに節をつけて唱える仏教声楽のこと』であるとし、唄（ばい）・梵唄（ぼんば

い）・梵音（ぼんおん）・伽陀（かだ）・讚（さん）とも称されることや、中国においての梵唄の祖師について解説しました。日本においては奈良時代（752年）の東大寺大仏開眼法要が初の声明法要とされており、鎌倉時代頃から仏教声楽を「声明」と呼ぶようになったと述べました。この約1300年の間、声明の旋律は変化してきていると思われるし、真言宗は男性的・男節な声明であるのに対し、天台宗は女性的・女節であるとしました。

その後、さまざまな大原流声明について解説し、実演しました。質疑応答では「どのように覚えるのか」と問われ、「師匠から口伝で教えて頂く。耳で聞いて何度も口に出して覚える」といったことや、「何のために、誰に唱えたものなのか」に対しては「お経を覚えるために“節”がついたこと。音楽をもって供養（讚嘆）すること。遠くまで聞こえるようにすること。民衆のために聞きやすくすること」と述べ、参加者はみな熱心に聞き入っていました。



ダーナ総会～テーマ「対話で得た日常の実態」を皆で語る～

今年のダーナ総会が11月24日、教会法座席で行なわれ多くの壮年部員が参加しました。

本部大聖堂で行なわれている様子をインターネット配信で拝見する形で始まった総会。今回のテーマは「対話で得た日常の実態」と題し、庭野光祥次代会長を迎えて実行委員を中心に対話がなされました。配信後の法座では活発な意見交換がされたよう、「妻の話しを聞き流さずに逆に尋ねるようにします」「支部の壮年部員さんと対話していきたい」など、対話の重要性を学ばれ、自身の生活に役立てていきたいというものでした。

午後からは食堂で壮年部懇親会を開催。ロータスアンサンブルの演奏や和やかな語らいの時間を過ごし、

支部を超えて対話が出来たようでした。個々の発表の中では「自分たちと同じ悩みを抱えている壮年さんの姿を拝見し“一緒にやる”と思えた」「人前では“よろい”を着る自分。自然体でいられる家庭の有り難さを感じたと共に、人前でも柔らかい自分でいられるようにしていきたい」などありがたくも楽しい発表となりました。東教会長からは、「日頃から庭の手入れなど壮年さんの支えがあっての教会」と感謝の意を表しながら、来年の年回りに言及。「2026年は一白の年、一からやり直す気持ちで取り組んでいきましょう」としました。

